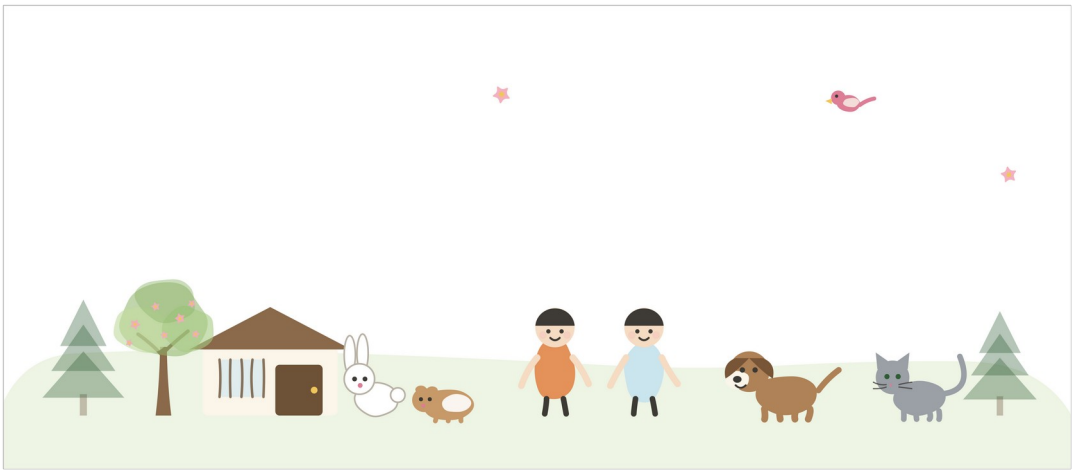
動物愛護教育を基軸とした 全人教育プログラム

むすびの森教育

① 総論・実施編

Musubi no Mori Education （ MME ）



教育方針・教育方法・プログラム・年間教育計画・運営体制

この１冊で、学園全体の設計思想と運営の骨格がわかります

教育関係者・行政の皆さまへ　ご説明資料

はじめに

本資料の構成（全 4 分冊）

学齢ごとの実務資料は②〜④をご覧ください

① **総論・実施編（本書）**

理念・方針・教育方法・年間計画・運営体制・導入手順

② **幼児期版（0〜7 歳・根）**

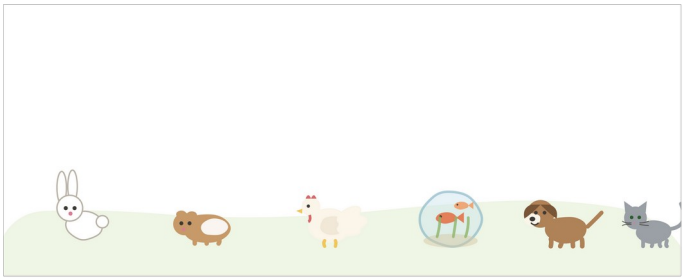
1 日の流れ・週間表・年間計画・ 5 領域別カリキュラム

③ **小学校版（7〜14 歳・幹）**

エポック授業・週間時間割・教科別カリキュラム・飼育当番

④ **中学校版（14〜15 歳・花）**

週間時間割・探究プロジェクト・進路対応・卒業研究



CONTENTS

本書の内容

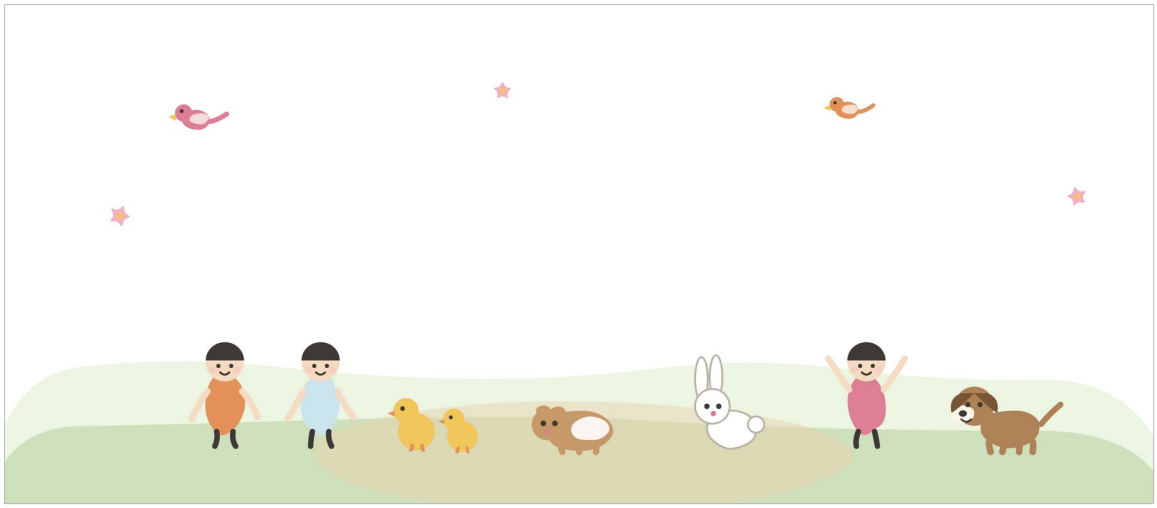
1 ネーミングとコンセプト

2 教育方針

3 教育方法と環境

4 年間教育計画（12 か月）

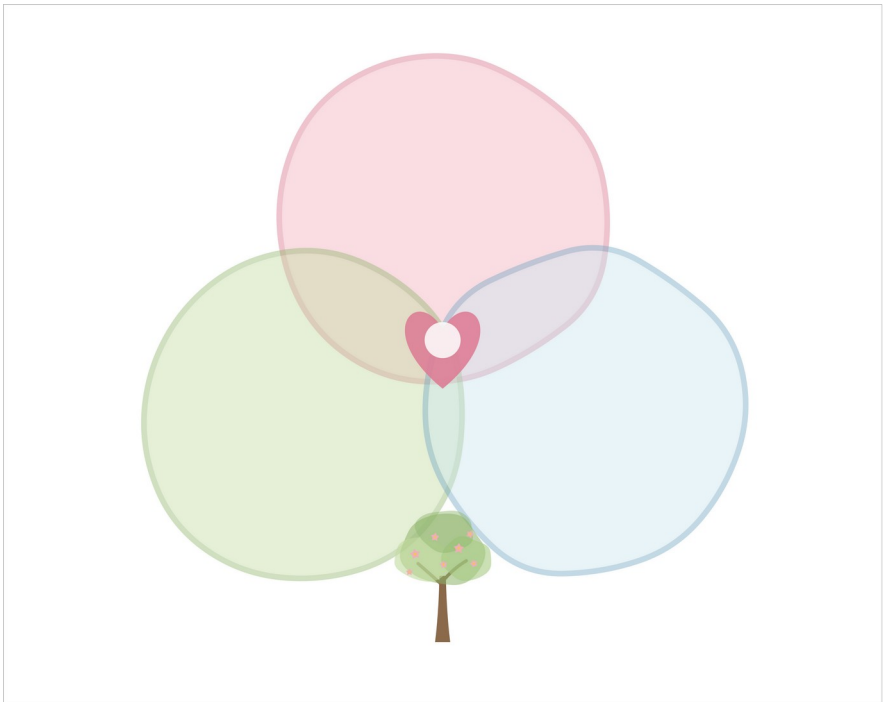
5 運営・実施体制



CHAPTER 1

ネーミングとコンセプト

名称に込めた意味と、３つの教育をむすぶ考え方



1 「むすびの森」の由来

2 ３つの教育をどうむすぶか

3 根・幹・花の３段階

1. コンセプト

「むすびの森」の由来

名

正式名称・むすびの森教育

英語表記 Musubi no Mori Education

結

「むすび」の意味

3 つの教育をむすび、人と動物・自然・人をむすぶ

森

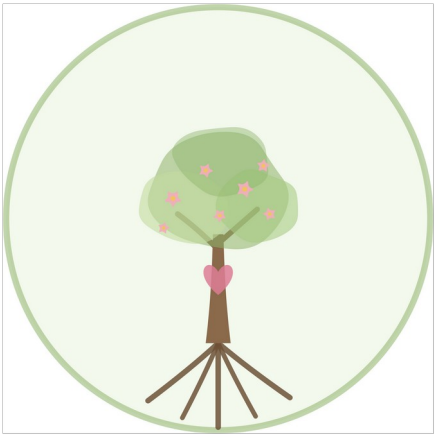
「森」の意味

季節のリズム、準備された環境、日本の森の文化

語

スローガン

根を張り、幹を伸ばし、花を咲かせる ― 心・手・和・いのち



1. コンセプト

3 つの教育をどうむすぶか

シ

シュタイナー教育から

発達段階（7 年周期）、芸術による養育、季節のリズム、長期担任制

モ

モンテッソーリ教育から

自己教育力、敏感期、準備された環境、自由選択と集中

日

日本の義務教育から

基礎学力、道徳、集団調和、給食・掃除・行事による生活力

命

いのちが背骨になる

動物愛護教育を全教科・全学齢に通し、 3 つを 1 本につなぎます



1. コンセプト

根・幹・花の 3 段階

いのちとの関わりは、発達に応じて姿を変えます

根

根： 0 〜 7 歳（幼児期）

意志と身体。いのちに触れる

幹

幹： 7 〜 14 歳（小学校期）

感情と芸術と学力。いのちを世話する

花

花： 14 〜 15 歳（中学校期）

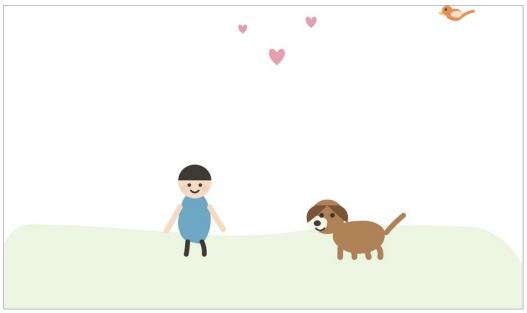
思考と自立。いのちのために動く



CHAPTER 2

教育方針

理念・目標・原則、そして動物愛護教育の位置づけ



1 理念

2 目標 — 6 つの力

3 5 つの原則

4 動物愛護教育 5 つの柱

5 「5 つの自由」の運営基準

2. 教育方針

理念

理 **めざす姿**

自立した創造的な社会貢献者を育てる

和 **咲かせるもの**

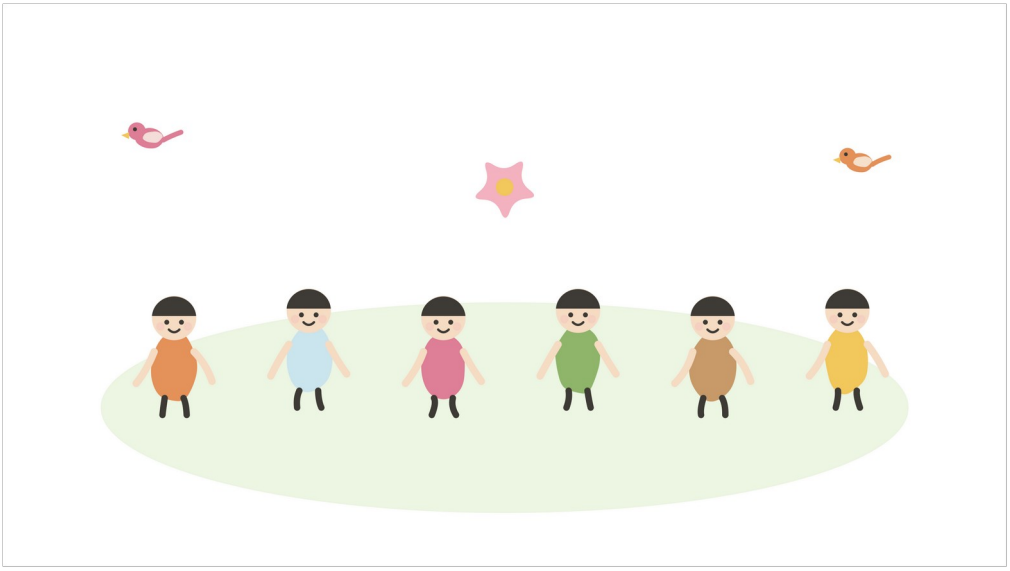
自然と社会に根ざした「和の花」

点 **その出発点**

自分より弱いいのちを守る経験を置く

統 **統合の原理**

3 つの教育を、生き物と関わる実践の中で統合する



2. 教育方針

目標 — 6つの力

知 基礎学力
確かな知識と、自ら調べ考える力

徳 道徳・協調性
生命の尊さを理解し、協働する態度

体 身体・実践力
屋外活動と飼育で培う健康な体

心 感情・想像力
物語・芸術・動物との関わり

手 自立・創造性
自分で選び、やりとげる力

命 いのちを尊ぶ力
弱いいのちに気づき、行動する



5 つの原則

① **発達段階を尊重する**
7 年周期と敏感期を重ねて設計する

② **準備された環境とリズム**
自由選択と、日々のリズムの両立

③ **国家基準の学力を確保**
教科・時数・評価基準を 100 %充足

④ **自然・芸術・実践を全教科に**
体験から概念へ進む順序を守る

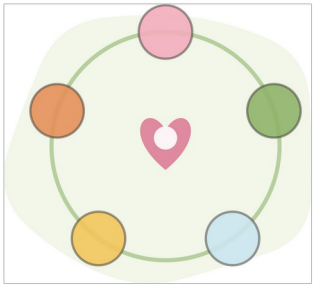
⑤ **すべての学びをいのちで通す**
生き物にとってどうかを問い続ける



2. 教育方針

動物愛護教育 5つの柱

知る・触れる・世話をする・考える・行動する



知 知る

習性、体のつくり、気持ちの表し方

触 触れる

正しい接し方と、無理のない距離

世 世話をする

給餌・清掃・観察を当番で続ける

考 考える

遺棄や共生など、答えのない課題

動 行動する

地域の保護活動や環境整備に参加

2. 教育方針

「5つの自由」の運営基準

国際的な動物福祉の指標を、学校の運営ルールとして明文化します

この5項目を、子どもと教職員が毎週いっしょに点検します。

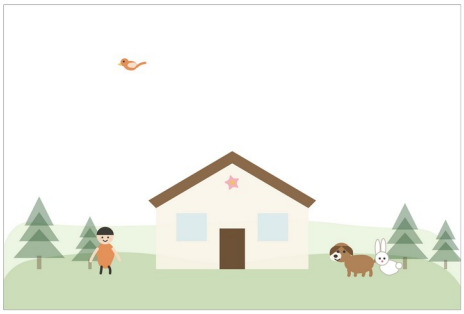
5つの自由	学校での具体的な基準
飢えと渇きから	毎日2回の給餌、常時新鮮な水。休日も当番制で確保
不快から	適温・適湿、十分な広さ、毎日の清掃と敷きわら交換
痛み・病気から	年2回の獣医師健診、異常時は即日連絡・受診
恐怖と抑圧から	追わない・大声を出さない。必ず隠れ場所を用意
正常な行動の表現	運動・砂浴び・掘る・登るなど本来の行動ができる環境

守れないときは、飼育活動を行いません。

CHAPTER 3

教育方法と環境

誰が、どこで、どのように子どもと動物に関わるか



1 クラス編成と教師の役割

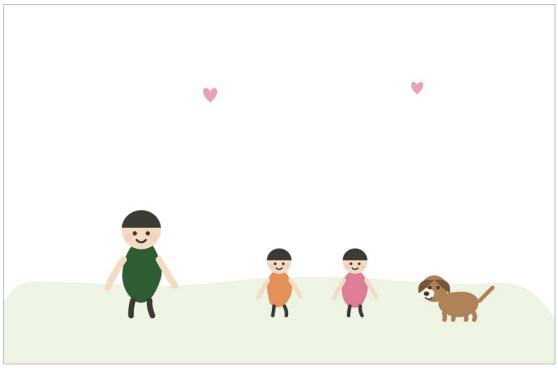
2 校舎・屋外環境

3 飼育動物の構成と迎え方

4 1 日の基本リズム

5 評価と連携

クラス編成と教師の役割



組

クラス編成

1 学級 20 名程度。学年制を基本に、飼育当番と森の活動は異年齢で編成

担

同一担任の長期持ち上がり

小学校期は原則として担任が数年間持ち上がります

観

観察者・ファシリテーター

教えすぎず、子どもが自ら関わろうとする瞬間を待ちます

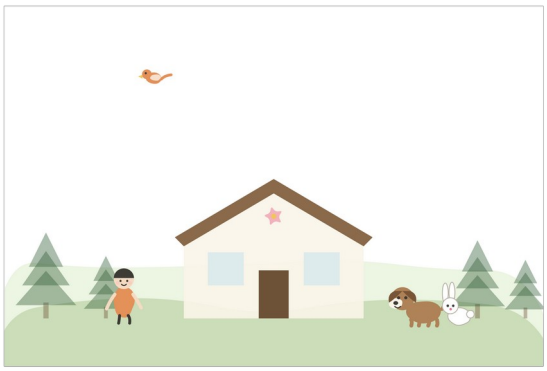
専

専科と外部専門家

芸術・体育・英語は専科。獣医師と愛護団体が定期的に関わります

3. 教育方法

校舎と教室の環境



素

自然素材中心

木・羊毛・綿。落ち着いた色調と、間接的なあかり

具

教具コーナー

モンテッソーリ教具を子どもの手が届く高さに常設

芸

芸術アトリエ

水彩・蜜蝋・手工芸の道具を出したまま使える専用室

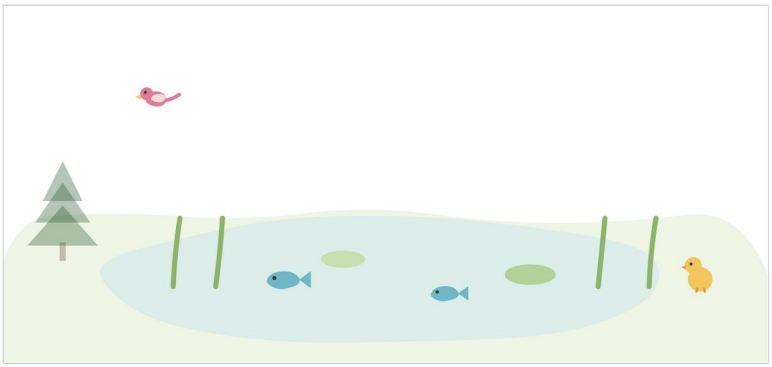
和

整える文化

自分たちで掃除し、履き替え、道具を戻す日本的な生活の型

3. 教育方法

屋外の学びの場



畑

学園菜園

学級ごとの区画。野菜くずは餌に、堆肥は畑に戻す循環

森

森の活動スペース

落ち葉・薪・木の実。季節ごとに姿を変える常設フィールド

水

ビオトープ

手を出さずに観察する場。トンボ・メダカ・カエルの生息環境

舎

飼育舎エリア

人の動線と分け、動物が休める静かな配置にします

3. 教育方法

飼育動物の構成

小動物に、学校犬・学校猫を加えた二層構成です

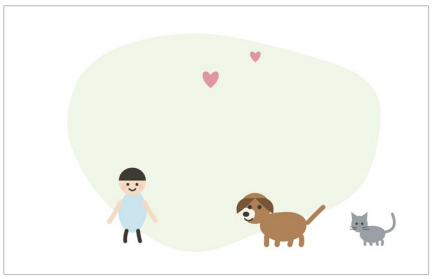
生き物の種類より、１匹あたりに割ける時間と手を優先して決めます。

動物	頭数	主な学びと配慮
うさぎ	２～３羽	毎日の世話。抱かずに床で接する原則を徹底
モルモット	２～４匹	低学年でも扱いやすい。鳴き声で気持ちを読む
にわとり	３～５羽	採卵と命の循環。菜園の残さを餌に
メダカ・金魚	水槽２基	水質管理と生態系。教室内で毎日観察
学校犬	１頭	保護犬を迎える。専任担当と休養室を必ず確保
学校猫	１～２匹	保護猫を迎える。完全室内飼育、逃げ場所を複数用意

3. 教育方法

学校犬・学校猫の迎え方

動物福祉を最優先に、段階を踏んで導入します



1

準備（半年前〜）

専任担当の決定、獣医師との契約、休養室と隔離室の整備

2

選定（３か月前〜）

保護団体と相談し、人に慣れた個体を。適性評価を必ず実施

3

受入（導入期）

最初の１か月は接触制限。子どもは遠くから見るだけ

4

定着（以降）

１日の接触時間の上限、休養時間、いやがったら即終了を明文化

1 日の基本リズム（ 3 段階比較）

どの学齢でも「朝のサークル」と「いのちの当番」から始めます

時間帯	幼児期	小学校期	中学校期
8:30	朝の会	朝の会	朝の会
8:50	当番	当番	当番
9:20	自由遊び	エポック	エポック
10:50	戸外・散歩	自由ワーク	教科授業
12:20	給食・掃除	給食・掃除	給食・掃除
13:30	午睡・静養	教科・実践	探究・教科
15:00	帰りの会	芸術・手工芸	部活動

朝の会＝朝のむすびサークル　当番＝いのちの当番　自由ワーク＝自由選択ワーク

評価のしくみ



録 **ポートフォリオ**

作品・観察記録・飼育日記を綴じ、子ども自身が見返します

語 **成長物語の記述**

数値ではなく、その子の歩みを言葉で描く質的評価

学 **年 2 回の学力チェック**

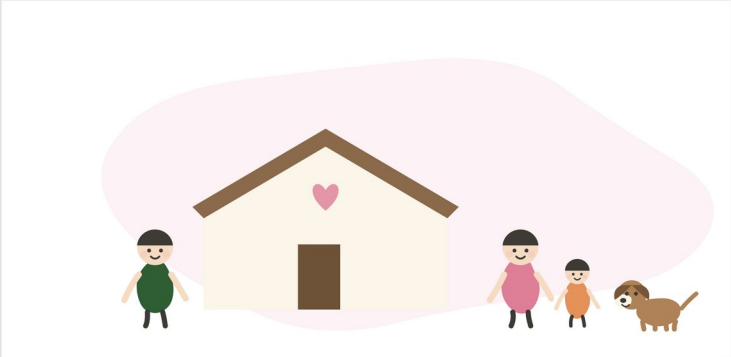
学習指導要領の基準に沿った到達度を確認

命 **いのちの学びの記録**

動物とどう関わったかを、教師と子どもの対話で振り返る

3. 教育方法

保護者・地域・専門機関



家

保護者ワークショップ

年 6 回。家庭のリズム、スクリーンタイム、動物との暮らし方

獣

獣医師

年 2 回の健診、飼育指導、出前授業、緊急時の受け入れ

護

動物愛護団体

譲渡会・シェルター見学、支援物資づくり、譲渡先の相談

町

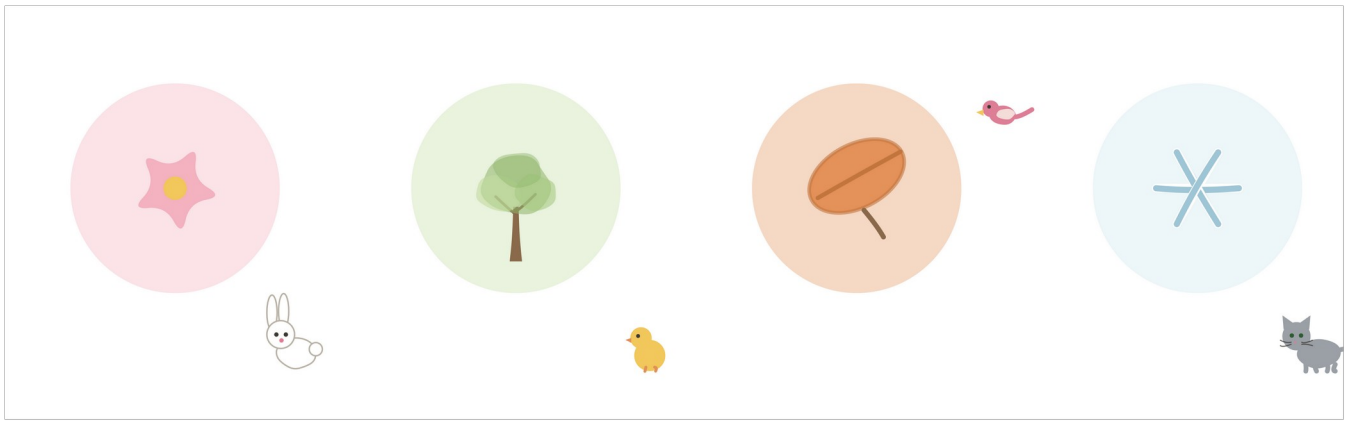
地域・行政

清掃活動、生息環境調査、収穫物の還元、愛護センターとの連携

CHAPTER 4

年間教育計画

季節・行事・エポック・いのちの学びを 1 枚に重ねる



1 年間計画の 4 つの層

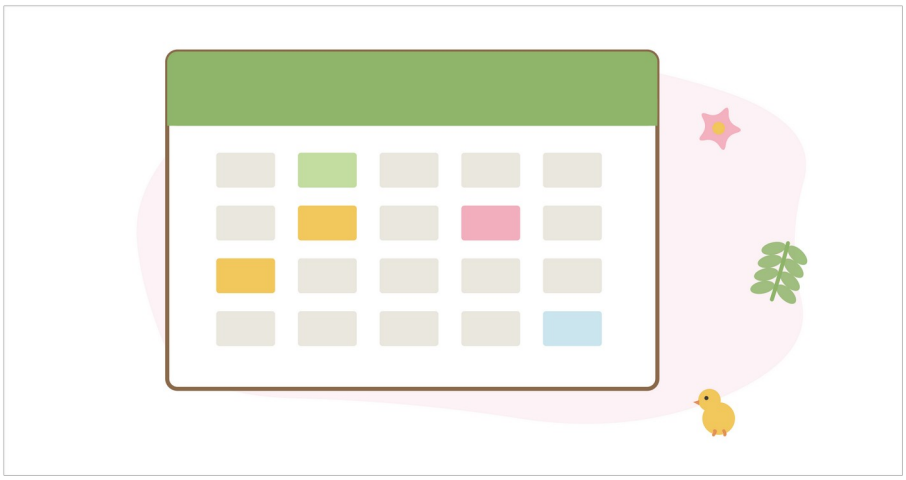
2 4 月〜 6 月／ 7 月〜 9 月

3 10 月〜 12 月／ 1 月〜 3 月

4 年間行事の三系統

年間計画の４つの層

同じ月を、４つの視点から重ねて設計します



季

第１層：季節

自然の変化そのもの。暑さ寒さ、草木、生き物の様子

行

第２層：行事

季節祭・日本の年中行事・いのちの行事

学

第３層：エポック／主題

その時期に最もふさわしい学習テーマ

命

第４層：いのちの学び

飼育動物と地域の生き物に関する重点課題

4. 年間計画

4月〜6月（春）

出会いと芽ばえの季節。関係づくりから始めます

月	季節・行事	エポック	いのちの学び
4	入学式・春の祭り	はじまりの物語／植物と種	動物との出会い。当番の組分けと約束づくり
5	こどもの日・田植え	植物と土／たし算ひき算	巣づくりと子育て。うさぎの毛づくろい観察
6	梅雨・田の草取り	水のはたらき／生き物と雨	水質と衛生。カビ・害虫と飼育舎の梅雨対策

春は関係づくりの季節。動物と子どもが互いに慣れる時間を優先します。

4. 年間計画

7 月〜 9 月（夏）

暑さと成長の季節。命を守る技術を学びます

月	季節・行事	エポック	いのちの学び
7	七夕・夏の祭り	星と宇宙／夏の生き物	暑さ対策。日陰・水・風。夏休み当番表の確定
8	夏季休業	自由研究／地域の自然	当番の実施。記録は家庭でも継続
9	防災の日・稲の実り	天気と災害／地域を知る	災害時の動物。同行避難と備蓄

夏は動物にとって最も過酷な季節。休日体制を事前に確定させます。

4. 年間計画

10 月〜 12 月（秋・冬）

実りと感謝の季節。命をいただくことを考えます

月	季節・行事	エポック	いのちの学び
10	収穫祭・運動会	実りと収穫／数と量	採卵と食。にわとりの卵から食を考える
11	動物愛護の集い	人と動物の歴史／地域調べ	殺処分と譲渡。愛護センターの学習と支援活動
12	冬至祭・大掃除	光と闇／冬の生き物	冬越し。保温と体調管理。動物慰霊の日

食べること、いただくことを、感情論に流さず正面から扱います。

4. 年間計画

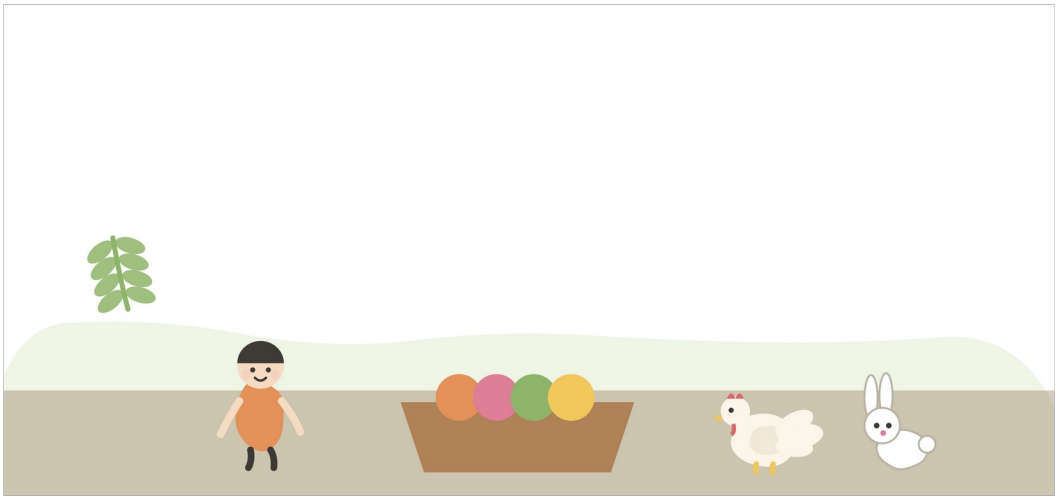
1月〜3月（冬・春）

まとめと巣立ちの季節。1年をふり返ります

月	季節・行事	エポック	いのちの学び
1	正月行事・書き初め	日本の文化／伝統と暦	干支と動物。人が動物とどう暮らしてきたか
2	節分・地域清掃	地域と環境／まとめ学習	野生動物と人。生息環境を守る清掃活動
3	むすび祭・卒業式	1年の物語／発表と共有	1年の飼育記録の発表。次の学年への引き継ぎ

1年の記録を必ず次の学年へ手渡し、飼育の連続性を保ちます。

年間行事の三系統



シ 季節の祭り（シュタイナー系）

春の祭り・夏の祭り・収穫祭・冬至祭

日 日本の年中行事

七夕・正月行事・節分・運動会・地域清掃

命 いのちの行事

動物愛護週間の集い・動物慰霊の日・譲渡会見学

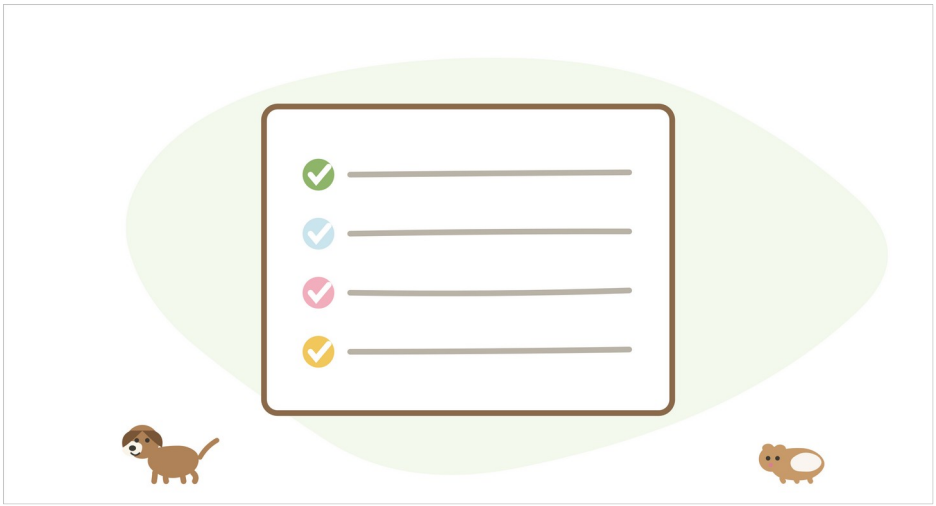
結 全学年合同「むすび祭」

3 月開催。芸術発表とプロジェクト発表。地域と保護団体を招く

CHAPTER 5

運営・実施体制

教職員・安全・施設・導入手順



1 教職員の体制と役割

2 教師育成プログラム

3 安全・衛生・危機管理

4 施設・設備と導入ロードマップ

5. 運営体制

教職員の体制と役割

1学年1学級・全9学年（幼児3年＋小6年）＋中3年の場合の目安

役割	人数	担当内容
学級担任	各1名	長期持ち上がり。エポック授業と生活指導
専科教員	3〜5名	芸術・体育・英語・実験
飼育専任担当	1〜2名	動物福祉の統括。獣医師との窓口
学校犬・猫担当	1名	接触ルールの運用と個体の健康管理
養護教諭	1名	衛生管理、アレルギー対応、感染症対策
地域連携担当	1名	保護団体・行政・保護者との調整

5. 運営体制

教師育成プログラム

採用後 2 年間で、 4 つの領域を計画的に修得します

1 **基礎研修（年 40 時間）**

3 つの教育の理論と、全体設計を学ぶ

2 **実技研修（年 60 時間）**

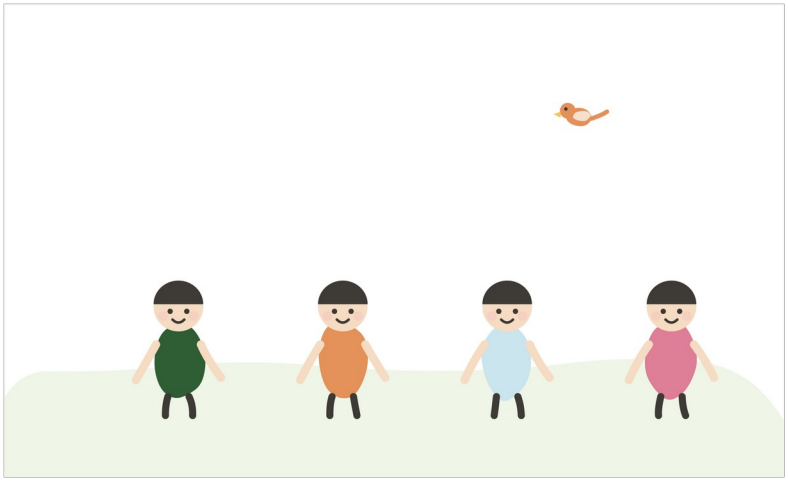
水彩、オイリュトミー、手工芸、教具の提示

3 **動物福祉研修（年 30 時間）**

獣医師による飼育管理と感染症対策

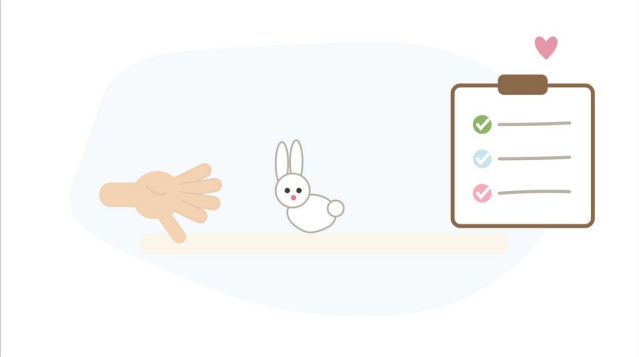
4 **実地研修（年 20 日）**

保護施設・愛護センター・先進校で研修



5. 運営体制

安全・衛生・危機管理



衛

人獣共通感染症対策

接触前後の手洗い徹底、飼育舎の定期消毒、記録の保存

ア

アレルギー対応

入学時に全員調査。接触免除と別活動を必ず用意

咬

咬傷・引っかき事故

接触ルールの掲示と訓練。発生時は即受診・記録・原因分析

災

災害時の対応

同行避難計画、３日分の餌と水の備蓄、搬送用ケージの常備

必要な施設・設備

初年度に整備すべき最低限の内容です

区分	内容
飼育舎	うさぎ・モルモット舎、鶏舎、屋外運動場、隔離室
犬猫スペース	休養室（人が入れない）、給餌場、トイレ、キャットタワー
衛生設備	屋外手洗い場、消毒設備、汚物処理場、洗濯機
屋外	学級菜園、堆肥場、ビオトープ、森の活動スペース
屋内	芸術アトリエ、教具室、木工室
備蓄	餌 3 日分、水、搬送ケージ、救急箱、発電機

導入ロードマップ（3年）

1

1年目：準備

教員採用と研修開始。施設整備。獣医師・保護団体と協定締結

2

2年目：開設

幼児期からの開設を推奨。小動物のみで飼育をスタート

3

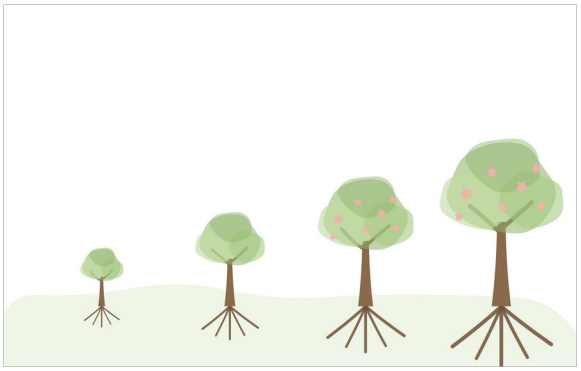
3年目：拡張

小学校期を開設。学校犬・学校猫を段階的に迎える

4

4年目以降

中学校期を開設。地域公開とむすび祭の本格実施



おわりに

むすびの森教育がめざすもの

自然の中で、子どもたちが「むすび」の花を咲かせる。

動物と向き合う毎日が、学びの根になります。

① **勉強嫌いになりにくい**

芸術・遊び・自立・実践の均衡

② **基礎学力を落とさない**

指導要領に完全準拠。進学にも対応

③ **創造性と協働力が高い**

選び、担い、表現する経験の蓄積

④ **いのちへの感度が育つ**

弱い立場に気づき、行動する市民性

